

# 県外派遣報告書



一般社団法人  
栃木県バスケットボール協会

様式1

提出日 令和 8年 3月 1日

派遣大会・事業名	関東U15審判クリニック
派遣期間	2月21日(土), 22日(日)
報告者	中村有希, 大房建太, 石井千菜美
派遣先	塩浜市民体育館(千葉県市川市)

## 派遣スケジュール

2月21日	関東U14DC男子交流戦
2月22日	関東U14DC女子交流戦
月 日	

大会参加審判員(本部・指名審判員のみ記載) ※敬称略

本部審判員	各県U15審判長 草野伸明(東京), 星河聖(群馬), 若林哲(埼玉), 荻野健(山梨), 栗田賢吾(神奈川), 伊藤洋揮(千葉), 鈴木孝一(茨城), 岡龍哉(栃木)
指名審判員	講師 雨宮恵(山梨), 永田裕衣(東京)

審判会議 ミーティング内容(共通事項・強調された点など)

<p>2月12日(木)19:00~ Zoomにてオンラインで実施</p> <p>○関東U15審判 長草野伸明氏 あいさつ ・当日では各々が持っている力を発揮することがDC選手のためにもなる</p> <p>○レクチャー (1)講師 雨宮恵氏 テーマ「きちんと始めてきちんと終わらせる」 ①プライマリエリアの確認 ・TとLの境目の確認 ・3POでは三角形を確保すること ・ワーキングエリアの確認 ②ゲーム前~ゲーム開始に意識すること ・試合前…機材やタイマー, ボール等の確認 ・トスアップ時…ジャンパーの位置, TOの準備 ・トスアップ直後…アロー, クロック, バックコートバイオレーションは起きないか ③ゲーム中に意識すること ・T…体の向き(45°), ポジションアジャスト, クロック管理 ・C…C to Cを素早く ・L…ミラーザボール, ヘルプDF, ピックザポイント, ローテーション ④正しいメカニクスが身に付くと ・クルーで気持ちよく協力できる ・様々な事への気付きにつながる(クロックやインテンシティ等) ・良い判定につながる ⑤丁寧に正しいメカニクスを1試合通して実行し続けることが大切</p> <p>(2)講師 永田裕衣氏 テーマ「選手の力を引き出す判定のために」 ①プレーコーリングについて ・判定するためにプレーを長く見る→プレーを早くつかまえる →プレーを早くつかまえるために, スカウティングやメカニクスの実践, 予測等から気付きの数を増やす ・気付きの数を増やすために, 様々なシチュエーションで起こりうることをたくさん知っておく ②自身の成長につなげるために ・ルールなどのインプットも必要だがそれをアウトプット(笛にして表す)する勇気が必要 ・担当試合ごとに何か1つテーマにして取り組む ・終わった後の振り返りでできたことを1つ見つける ・たくさんトライして, 失敗を積み重ねていく</p>
---



# 県外派遣報告書



一般社団法人  
栃木県バスケットボール協会

様式2

提出日 令和 8年 3月 1日

## 担当試合

試合日	2月21日(土)
回戦 カード 点数	男子 茨城VS山梨
会場	塩浜市民体育館
審判員名	CC福間遥奈(神奈川) U1中村有希 U2重田将(群馬)
審判員主任名	荻野健(山梨)
試合振り返り	

1日目の最後の割当てであった。引き続き同クルー担当であったためコミュニケーションを意識してよりよいものとなるように心掛けた。リードのローテーションに迷いが見られ、メカが崩れてしまったケースがあったため予測と決断をより行っていく必要を感じた。

ゲーム後、荻野氏からは判定についてはよいコールがたくさんあったとお言葉をいただいたものの、メカについてより理解を高めるよう指摘があった。メカニクスの精度を高くしてより良い判定ができるよう再確認していきたい。

## 担当試合

試合日	2月22日(日)
回戦 カード 点数	女子 栃木VS神奈川
会場	塩浜市民体育館
審判員名	CC中村有希 U1高野史(群馬) U2松寄朋弥(茨城)
審判員主任名	荻野健(山梨)
試合振り返り	

2日目の最初の割当てであり、本日は女子ゲームであった。クルーも変わり、ゲーム前のカンファレンスでは、自分のプライマリーを死守すること、積極的にリードのローテーションを行うこと、アイコンタクトをとり、3or2の漏れがないよう話をした。昨日の男子のゲームとは違い、ディフェンスのあたりが激しくゲームの整理の部分で課題が残った。

試合後、荻野氏からは判定は安定していたものの栃木県の手の使い方をもっと整理してもよかったのではとの指摘があった。B級としての経験も浅いクルーもいたため、クルーチーフとして、しっかりと基準を作ってゲームを収めていく力量が求められるものとなった。

全体の感想 提言 参加者から学んだこと栃木県内審判員へ伝えたいこと

--

# 県外派遣報告書



一般社団法人  
栃木県バスケットボール協会

様式2

提出日 令和 8年 3月 1日

## 担当試合

試合日	2月22日(日)
回戦 カード 点数	女子 埼玉VS栃木
会場	塩浜市民体育館
審判員名	CC高野史(群馬) U1松寄朋弥(茨城) U2中村有希
審判員主任名	若林哲(埼玉)
試合振り返り	

埼玉の高さやスピード対栃木の粘りのあるディフェンスという内容のゲーム展開となった。栃木は前のゲームでも担当しており、クレーで手の使い方を一つ一つ丁寧にに対応していこうと話をした。結果としては埼玉が力の差を見せつける形となった。若林氏からは県の選抜選手としての正しいプレーについて、プレーの初めから終わりまでしっかり見たうえでオフェンス・ディフェンスの勝ち負けをしっかりと判定していく。その中で本当に正しいプレーができていくということも念頭に置いてコールをしていく。育成年代としてブラッシュアップさせていくことも審判の技量の一つという話があった。

## 担当試合

試合日	2月22日(日)
回戦 カード 点数	女子 東京VS群馬
会場	塩浜市民体育館
審判員名	CC松寄朋弥(茨城) U1中村有希 U2高野史(群馬)
審判員主任名	星河聖(群馬)
試合振り返り	

2日目の最終割当てであった。2日間の集大成として臨んだゲームであり、これまで助言頂いたことを意識してゲームに入った。内容としては大きな現象があるような展開ではなくスムーズにゲームが流れていった印象であった。そのため、クロックの管理やアウトオブバウンズ、ファールなど丁寧に見ていくことを心掛けた。星河氏からは判定については今までの経験があるため説得力のあるものであったが、笛を入れた時の、間の取り方、選手・会場・レポートの見せ方など工夫するとよいとの話があった。

## 全体の感想 提言 参加者から学んだこと栃木県内審判員へ伝えたいこと

<p>今回の派遣では2日間でハーフゲームを6本担当させていただき、その中でプライマリーの意識を課題として臨んだ。自分の中で意識していたつもりであってもプライマリーの理解やプレーの理解について未熟な部分があったため的確にコールができなかった部分があった。しかし、ゲームを通して意識することは継続することができたので今後も理解を深めていくとともに継続していきたい。また、見せ方、立ち振る舞いについても県内で言われてきたことであり、今回の講習会でも指摘があったため、今後さらに研究を重ねていきたい。今回の派遣は各都県フレッシュな方が多く、各々勉強をよくしている姿が見られ勢いを感じた。自分は年齢的にもベテランに差し掛かっている。今後はベテランとしての安定感とフレッシュな気持ちを忘れずに真摯に取り組む姿を県内で見せていきたい。県内でも若手が増えている中でB級としてのあり方を示していければと思う。今回派遣をさせていただき私自身にとって大きな経験となりました。改めて感謝申し上げます。今回の経験を県内の皆様にも還元できるように精力的に活動していきたいと思っております。</p>
--



# 県外派遣報告書



一般社団法人  
栃木県バスケットボール協会

様式2

提出日 令和 8年 3月 1日

## 担当試合

試合日	2月21日(土)
回戦 カード 点数	男子 千葉VS埼玉
会場	塩浜市民体育館
審判員名	CC千葉みのり(埼玉) U1長谷高崇(千葉) U2大房建太(栃木)
審判員主任名	荻野健(山梨)
試合振り返り	

両チームともスキルが高く、フィジカルもありタフなゲームでしたが、クルーで協力しスムーズに試合を終えることができました。このゲームではU2として参加しましたが、CCMを意識して積極的に判定していくことにチャレンジしました。振り返りでは、セカンダリとしてコールする時に、プライマリレフェリーがいることを意識し、見るポジションを考慮した上で判定するとよいとの反省を頂きました。また、DFがドライブしているOFのシリンダーに入りすぎてしまい、抜こうとしたOFがDFの腕を振り払おうとする動作をしているケースがいくつかありました。コールはされているものの、腕を振り払う行為をさせないためにも笛のタイミングを変えるとよいともアドバイスを頂きました。

## 担当試合

試合日	2月22日(日)
回戦 カード 点数	女子 栃木VS群馬
会場	塩浜市民体育館
審判員名	CC:矢崎 勇人(山梨) U1:高野 佑也(茨城) U2:大房 建太(栃木)
審判員主任名	伊東洋揮(千葉)
試合振り返り	

両チームともアグレッシブにディフェンスを行い、ディフェンスの手の使い方について整理が必要な場面が多々あり、クルーで協力して手の使い方についてコールを重ねていきました。DC交流戦ということもあり、テンポセットしても、5人が代わり、またアグレッシブにディフェンスをするということが繰り返されるゲームでもありました。クルーで協力し根気強くコールを続けていくことが必要だと感じたゲームでした。

全体の感想 提言 参加者から学んだこと栃木県内審判員へ伝えたいこと

# 県外派遣報告書



一般社団法人  
栃木県バスケットボール協会

様式2

提出日 令和 8年 3月 1日

## 担当試合

試合日	2月22日(日)
回戦 カード 点数	女子 千葉VS栃木
会場	塩浜市民体育館
審判員名	CC高野佑也(茨城) U1大房建太 U2矢崎勇人(山梨)
審判員主任名	星河聖(群馬)
試合振り返り	

前試合の振り返りをクルーで共有し、特に手の使い方については先ほどのゲームよりも整理することができました。この試合ではフリースローでのバイオレーションが数回あり、ゲームクロックが流れてしまうケースがありました。ゲームクロックを含めたTO管理、クロックの管理を早急に改善していかなければならないと感じたゲームでした。また振り返りの中で、フリースロー時のバイオレーションについてはクロックが流れやすいので、ケース化して対応するとよとの反省を頂きました。

## 担当試合

試合日	2月22日(日)
回戦 カード 点数	女子 山梨VS埼玉
会場	塩浜市民体育館
審判員名	CC大房建太 U1矢崎勇人(山梨) U2高野佑也(茨城)
審判員主任名	若林哲(埼玉)
試合振り返り	

最終的には点差がついたものの最後まで両チームともアグレッシブなプレーが続く好ゲームでした。クルー全員が2日間の振り返りを踏まえ、それぞれがプライマリーでの判定を積み重ねていくことができました。自身としては昨日にセカンダリーとしての判定に課題があったので、ケイデンスホイッスルを意識し、鳴らすものや鳴らすタイミングについてチャレンジすることができました。ケイデンスホイッスルとして良いタイミングのものがあったと振り返りを頂き、チャレンジした結果収穫を得られたゲームとなりました。

## 全体の感想 提言 参加者から学んだこと栃木県内審判員へ伝えたいこと

今回はDC交流戦であったので、ハーフゲームの中で選手の交代が激しく、根気強く吹き続けることが求められた。通常のゲームにおいても5人交代して、ゲームの質が変わることがあるが、今回のゲームの特性もあり、選手が交代した後にチームがやりたいこと、ゲームの流れを感じながらコールしていくことにチャレンジすることができた。また、ゲームクロックやショットクロックに関して修正できたものもあれば抜けてしまったものもあった。クロックの管理に関しては当たり前に行わなければならないことだと思うので、日頃から訓練を行い、早急に改善し、当たり前のようにできるようにしていきたい。

さらに今回県外の審判員の皆様とコミュニケーションをとる中で、栃木県には上級審判員が多く所属しており、非常に恵まれた環境であることを再認識した。

今回の派遣に際し、お世話になった千葉県審判委員会の皆様や各都県連盟審判長の皆様、梶審判長をはじめ、県内の審判員の皆様には多くのご配慮をいただきありがとうございました。

# 県外派遣報告書



一般社団法人  
栃木県バスケットボール協会

様式2

提出日 令和 8年 3月 1日

## 担当試合

試合日	2月21日(土)
回戦 カード 点数	男子 埼玉VS神奈川
会場	塩浜市民体育館
審判員名	CC 一木知哉(群馬) U1 松寿朋弥(茨城) U2 石井千菜美
審判員主任名	栗田賢吾(神奈川)
試合振り返り	

男子県選抜の7分ゲーム×2本は、立ち上がりから両チームともプレッシャーディフェンスを全面に出した強度の高い展開となった。各チームから構成された選抜チームであるため、選手交代も多く、選手の特徴や試合の流れを把握するのが難しかった。両チームともボール保持者の1対1が中心の攻防が続いたため、プレーは比較的捉えやすかった。プライマリエリアのレフェリーが基本的には判定できるようにクルーで共有し、適切なアングルを確保できる位置取りを1試合通して行った。クルーの中では私が一番審判の経験が長いため、自分がゲームをコントロールする気持ちで臨んだ。何らかの理由で相手レフェリーが鳴らせなかったゴール下のビックインパクトのプレーに対してカバーすることができた。自身のエリアを超えたレフェリングにならないようにすることや笛を鳴らすタイミングを遅らせること(ケイデンス)を意識できるようにしたい。

## 担当試合

試合日	2月21日(土)
回戦 カード 点数	男子 東京VS神奈川
会場	塩浜市民体育館
審判員名	CC 松寿朋弥(茨城) U1 石井千菜美 U2 一木知哉(群馬)
審判員主任名	伊東洋揮(千葉)
試合振り返り	

ターンオーバーやパスカットが多く、ドライブで狭いエリアへ侵入する場面も目立った。接触に対しては、プレーの始まりから終わりまでを捉えて、オフェンスとディフェンスのどちらに責任があるのか見極め、一方に有利・不利が生じていないかを考えながら判定した。合わせて、マージナルコンタクトかどうかを冷静に判断することを心掛けた。クルーの課題として、コンタクトに対して判定しようとプレーに入りすぎてしまい、ボールウォッチャーになってしまう傾向があった。同一のプレーを複数で見ってしまうケースが見られたことから、役割分担の徹底が必要であると感じた。オフボールのプレーにも注目し、常に視野を確保できるような体の向きを保持したい。アウトオブバウンズの判定に関して、選手が重なって見えにくい場面では、クルーで協力して対応することができたので継続していきたい。

全体の感想 提言 参加者から学んだこと栃木県内審判員へ伝えたいこと

# 県外派遣報告書



一般社団法人  
栃木県バスケットボール協会

様式2

提出日 令和 8年 3月 1日

## 担当試合

試合日	2月21日(土)
回戦 カード 点数	男子 群馬VS茨城
会場	塩浜市民体育館
審判員名	CC 石井千菜美 U1 一木知哉(群馬) U2 松寄朋弥(茨城)
審判員主任名	草野伸明(東京)
試合振り返り	

試合は終始シーソーゲームで、拮抗した展開であった。両チームとも体格の良い選手が多く、群馬は要所でポストアップを効果的に用いた。一方、茨城は小柄な選手が体を張って守備をしていたが、ポストディフェンスにおける過度なコンタクトや手の使い方が気になる場面も見られた。体格差を考慮しつつも、イリーガルな接触やボールに向かわないプレーについては、中学生時代であるからこそ明確に基準を示すことの重要性を再確認した。群馬ベンチからのアピールや判定に対するリアクションも見られたが、ベンチの反応に左右されることなく、根拠を持った一貫性のある判定を継続することを意識した。審判員はクリーンバスケットを守る存在であり、選手・ベンチ・審判が互いにリスペクトの気持ちを持つことがより良いゲームづくりにつながる感じた。

## 担当試合

試合日	2月22日(日)
回戦 カード 点数	女子 埼玉VS東京
会場	塩浜市民体育館
審判員名	CC 高橋理以(神奈川) U1 石井千菜美 U2 小林優(千葉)
審判員主任名	星河聖(群馬)
試合振り返り	

東京はドリブルプッシュを多用しており、苦しい体勢からのパスが増え、ターンオーバーが目立った。一方、埼玉はパスで攻撃を展開していた。特にインサイドを効果的に使いながら、中と外をバランスよく攻め分け、得点に結びつけていた点が印象的だった。リードポジションでは、より良いアングルを確保するための足の運びが不足し、ミラー・ザ・ボールを徹底できなかった。さらに、ディフェンスの手の使い方において、早い段階で勝敗をつけてしまうことがあったので、オフェンスの次の展開を予測することが大切だと改めて感じた。しかし、テンポセットをする場合は、1Qで基準を示すことも技術の一つであることを頭に入れておきたい。考えるべき基準は、オフェンスがやりたいプレーができていのかどうかである。選抜チーム同士のゲームとして、一定の接触強度は想定しながらも、ファウルの基準を明確に保ち、選手・観客視線を踏まえたレフェリングを心掛けたい。

全体の感想 提言 参加者から学んだこと栃木県内審判員へ伝達したいこと

# 県外派遣報告書



一般社団法人  
栃木県バスケットボール協会

様式2

提出日 令和 8年 3月 1日

## 担当試合

試合日	2月22日(日)
回戦 カード 点数	女子 千葉VS神奈川
会場	塩浜市民体育館
審判員名	CC 石井千菜美 U1 小林優(千葉) U2 高橋理以(神奈川)
審判員主任名	荻野健(山梨)
試合振り返り	

千葉はガードのボールコントロールが安定しており、全員が1対1で仕掛ける力があつた。ドライブに対する合わせもよく、ピックを使ってズレを作っていた。速攻では、空間に仲間を走らせる良いパスを出して得点につなげていた。一方、神奈川は個人の能力は高いが、シュートの決定率に課題が見られた。クルーで目を合わせて確認を徹底し、フリースローのボーナスショットの場面でも失念することなく適切に処理できた点は良かった。自分の責任エリアでない部分はクルーを信頼し、安心して任せることで自分のレフェリングに集中できることを改めて実感した。様々な審判員とクルーを組む機会がある中で、円滑に試合を開始し、適切に終わるためには相手を理解する姿勢が重要であると感じた。事前・試合中のコミュニケーションを大切にしていきたい。

## 担当試合

試合日	2月22日(日)
回戦 カード 点数	女子 茨城VS山梨
会場	塩浜市民体育館
審判員名	CC 小林優(千葉) U1 高橋理以(神奈川) U2 石井千菜美
審判員主任名	岡龍哉(栃木)
試合振り返り	

山梨は留学生の身体能力が際立っており、長いリーチを生かしてリバウンドを量産していた。一方、茨城はペイントタッチからの3Pシュートが効果的で、ガードのゲームコントロールも安定していた。終盤は疲労の影響もあり、メカニクスの崩れが見られた。チェックイン・チェックアウトなど受け渡しの動作が不十分な場面があり、今後の課題である。メカニクスを正しく理解することが、無理のない判定や不要なコールを防ぐことにつながると改めて感じた。また、審判員としての振る舞いや姿勢、走り方、レポートの仕方もゲームの信頼性に直結する重要な要素である。体格や性別に関わらず、毅然とした態度と明確な表現で信頼を得られる審判員でありたい。

## 全体の感想 提言 参加者から学んだこと栃木県内審判員へ伝えたいこと

今回は栃木県の代表として本講習会に参加させていただきました。このような貴重な機会をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

目標に向かって努力をすることは、自身の成長につながり、人生をより豊かにしてくれるものであると改めて感じました。同年代や年下の審判員が講師を務めたり、大舞台上で活躍されている姿に触れ、大きな刺激を受けました。審判活動は決して容易なものではありませんが、審判としての知識や技能を正しく学び、理解することで確実に力がつくことを実感しました。当たり前の中にも多くの発見があり、見方や意識を変えるだけで、より判定しやすくなり、選手の最高のパフォーマンスを支えることができると確信しました。失敗を重ねながらも挑戦を続けることが成長への近道であり、その姿勢を今後も大切にしていきたいと思えます。

本研修で得た学びや経験を県内の審判員へ還元し、栃木県の審判活動の発展に少しでも貢献したいと考えております。そして、県内で審判に挑戦する仲間がさらに増えていくことを願いながら、信頼される審判員を目指して、私自身も努力を重ねてまいります。

最後に大会運営の中心となってくださった千葉県審判員の皆様、大会役員の皆様、また派遣に際してご配慮いただきました梶審判長をはじめ、栃木県内の審判員の皆様に心より感謝申し上げます。報告といたします。